

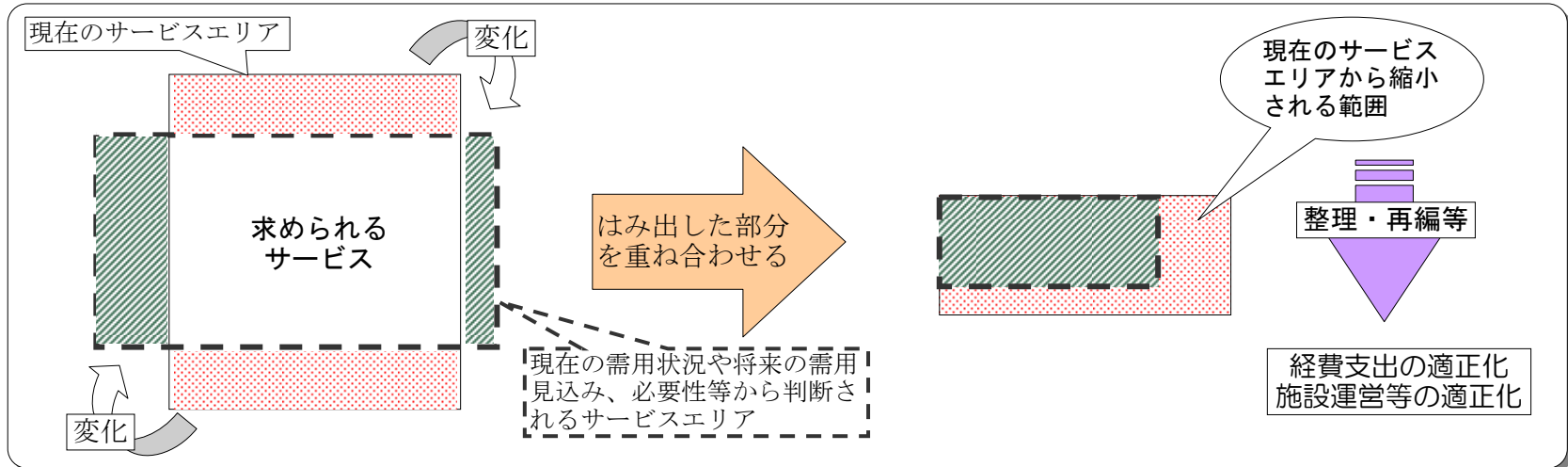
4. 適正な事業規模への取り組み

- ・事業開始時には効果的・効率的であった事業も、常に変化する社会情勢に伴い、「求められる役割やサービス内容、必要性、需要見込み」は変化していきます。
- ・このため、これまでに見直しを行ってきたものであっても、今後更に変化が見られるものも少なくはないと考えています。
- ・「この変化」を“的確に把握”し、柏原版事業仕分けやまちづくり戦略会議などで精査することによって「事業規模を適正化」し、経費支出の適正化や施設の運用等に対する有効性の向上に繋がります。

取り組みの観点（案）

- 求められる役割やサービス内容の変化、必要性の変化
 - 現在の需用状況や今後の需用見込み
- などを観点とした事業規模の精査

取り組みイメージ



取り組み項目の例（案）

- ・ 公営企業や循環バス等、今後の需用見込み等に基づく事業計画の見直し、事業の再構築
- ・ 公共施設の適正配置計画に伴う整理・再編

など